



▲移築された吉田古墳

吉田古墳群 ～鍛冶に関わった人物が眠る古墳～

吉田古墳群は、財田中吉田に所在する市指定史跡です。平成3年の土地造成計画に伴って、当時の財田町教育委員会が発掘調査を行ったところ、5基の古墳が確認されました。なお、現在はその中の1基が復元・移築されています。

確認された5基は、ともに円墳(丸い古墳)であり、埋葬施設には横穴式石室を採用していました。「横穴式石室」は古墳内に設置された死者を埋葬する空間のことです。横方向に出入り口があるため、葬儀のたびに開閉ができ、複数回死者を埋葬(「追葬」と呼びます)することができます。吉田古墳群の石室の中からは多くの須恵器(焼き物)が出土しています。死者とともに副葬された須恵器を注意深くみていくと、

新しいものと古いものに分けられます。異なる時期の須恵器がひとつの石室から出土したことから、少なくとも一度は追葬が行われたことが推測できます。

さて、吉田古墳群は、明治43年に「鉄鋏」・「鉄床」・「鉄鉋」と呼ばれる鍛冶に使用される鉄製品がセットで出土したといわれています。これらが副葬品として納められていたことから、ここに眠る人物が生前、鍛冶に何らかの形で関与していたことが推測できます。

明治時代に記録された古墳群と、平成に調査された古墳群が同じものかどうかは断言できません。しかし、古墳時代後半に財田町で多くの古墳が築かれ、当時の先端技術である鍛冶に関わる人物も存在したことは、特筆すべき出来事です。

<生涯学習課>

今月の市民力

四国学院大学と「包括的連携・協力に関する協定」を締結し、子育て支援として放課後児童クラブの指導員やインターンシップ制度の構築、また、市民の健康づくりのためのプログラム作りなどスポーツ振興の分野での連携を行っています。

放課後児童クラブで子どもたちと同じ目線で遊ぶ大学生。子どもたちにとっては、何でも聞いてくれるお兄ちゃんやお姉ちゃんができる大はしゃぎ。子どもたちのパワーに少し押され気味の大学生ですが、回を重ねるごとに、いいコミュニケーションが取れるようになってきているようです。がんばれ大学生!

